

UDLM

8

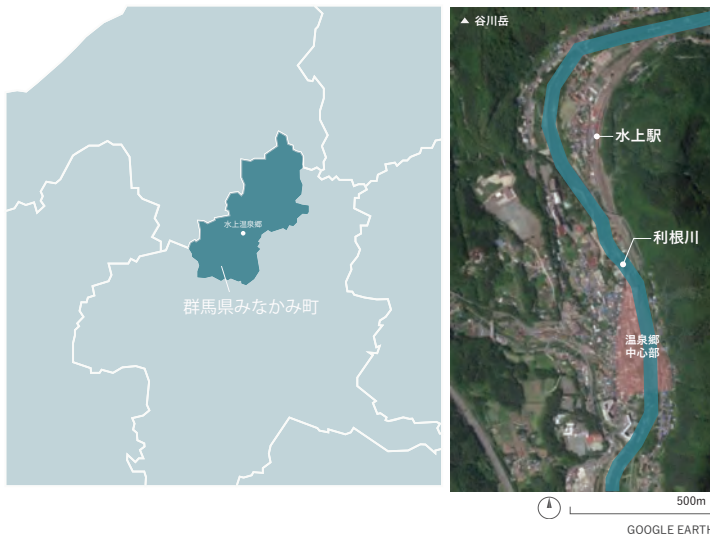
vol.309

August 31th
2021

出で湯のふるさとから

- p.2 みなかみプロジェクト始動！
- p.3 水上温泉街の再生を目指して
- p.4 プロジェクトのカタチ

みなかみプロジェクト始動！



利根川の最初の一滴を生み出す群馬県みなかみ町。2021年度より地方圏における新たなプロジェクトとしてみなかみプロジェクトが始動した。7月下旬に初の現地調査に向かい、その美しい景観や豊富な自然資源を五感を通じて感じることが出来た。プロジェクトの始動から4ヶ月が経過し、現地調査に向かったこの機会に、みなかみ町とその中の水上温泉街の基礎的な情報、及びプロジェクトとして現在進めていることについて紹介する。

対象地 群馬県利根郡みなかみ町

対象地であるみなかみ町は関東北部の群馬県最北に位置し、谷川岳・三国山の麓、利根川の源流域であり「関東の水瓶」と称される自然と温泉が豊かで風光明媚な町である。

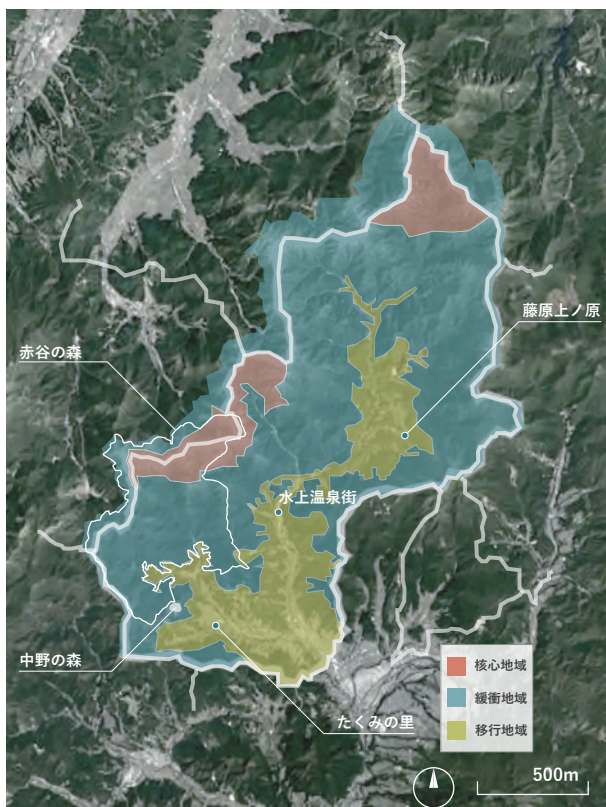
対象敷地 水上温泉街

プロジェクトにおいて、現在具体的な対象敷地となっているのが、水上温泉郷の中核をなす水上温泉街である。利根川を見下ろし谷川岳を見上げることができる。

●壮大な自然環境に恵まれた町・みなかみ町

みなかみ町の魅力は何かと尋ねられた時、それは東京都心から新幹線で1時間程度というアクセスの良さを持ちながらも、ユネスコエコパークに登録される程の豊かな自然が数多く残されていることだろう。その中で自然環境

の維持管理のため、自然環境に関する先進性のある様々な取り組みがなされている。ここでは環境最先端地域としてのみなかみ町に焦点をあて、いくつかの取り組みについてまとめたいと思う。



▲ユネスコエコパークの土地利用区分と各取り組み・温泉地の位置

ユネスコエコパークは役割の異なる3つの地域により構成されている。

- ・核心地域：手つかずの原生的な自然環境が利根川の最初の一滴を生み出すエリア
- ・緩衝地域：環境教育・調査研究エコツーリズム等が行われるエリア
- ・移行地域：豊かな森と水の持続的な利用を積極的に行うエリアとみなかみ町においては定義されている。

Ⅰ 森林資源や里地・里山による「場づくり」

●たぐみの里

約330haののどかな里山の中に20種類以上の体験工房が点在する、歴史や伝統文化を観光に活用した農村。



●藤原上ノ原（森林塾青水）

住民や行政と連携し里山の生態系や景観の保全、奥山集落のエコミュージアム化と活性化を目指す活動を実施。



Ⅱ 森林整備・保全

●赤谷プロジェクト

県境に広がる、約1万haの国有林「赤谷の森」の生物多様性の復元と持続的な地域作りを進める取り組み。



●中野の森プロジェクト

中野区と連携し、みなかみ町の約15haの牧場跡地に、約3万本の木を植林。森林環境保全も続けて行う。



Ⅲ 自伐型林業

「自伐型林業」とは森林所有者や住民が自分で山に入り木を切り出す形態の林業で、行政が一体となりつつ、いくつかの主体によりこの「小さな林業」が推進されている。収益が少ないという課題に対し、町が手作り家具で高い技術をもつ企業と連携協定を結ぶなど地域材の付加価値向上に向けた取り組みも行われる。



水上温泉街の再生を目指して

現在みなかみプロジェクトでは、対象敷地である水上温泉街に焦点をあて、いくつかの側面から提案に向けて敷地調査を進めている。今回はその中から、

水源県群馬の最上流であるみなかみ町全体を見渡した時、そこには圧倒的に恵まれた自然条件がある。行政も積極的であり、「カーボンゼロシティ」への表明や木育への取り組みが行われているが、水上温泉街に目を向けた時、周辺環境の優位性はほとんど活かされておらず、衰退の一途を辿っている。最盛期を迎えた高度経済成長期やバブル期に建設されたコンクリート建築が、ものによっては廃墟となるなど、温泉街の負のストックとなっている。右の写真は昭和期と現在の景観の比較であるが、増築した温泉旅館により山並みへの眺望が阻害されている。みなかみプロジェクトでは、エコパークと共生する水上温泉街の再生に向けて、調査やビジョン作成を進めている。

自然環境に最も関わる部分である、水上温泉街の「木質利用」について紹介する。



▲昭和時代の水上橋から北への眺望

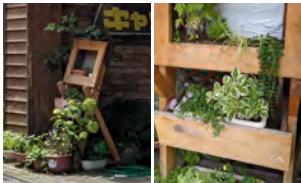


▲現地調査（2021.7）の際の水上橋からの眺望

水上温泉街 木質利用プロジェクト

● 背景 | 2050 カーボンニュートラルとみなかみ町の森林

2050 カーボンニュートラルに向け、脱炭素都市への移行が不可欠の状況にある。森林資源の豊かなみなかみ町では、町全体での木質循環がその大きな比重を占める。しかし、森林に目を向けた時、所有者の関心不足や担い手減少、広葉樹の需要減等の様々な問題を抱えている側面がある。また、温泉街も町全体の木質循環の一部を担うべく、計画的かつ積極的な木質利用を実践する必要がある。現在、温泉街では単体での木質利用が見られる程度であり、利用の拡大及び川上・川中との連携向上を進めるべきであると考えます。



▲水上温泉街で見られる小規模な木質利用



▲水上温泉街のまちなみの現状

● 目的 | 森と街、川上 - 川中 - 川下をつなぐ

地域脱炭素に向けては水上温泉街の周辺を囲む森林資源を有効活用することが重要である。森林、林業が持続可能であるには、川上、川中、川下が協調し歩留まり※を大きく必要がある。みなかみ町においても健全な森林資源の循環、地域材の需要の喚起のため木材等を集出荷する仕組みと環境の構築が目指されている。そこで水上温泉街における新たな木材流通の場と循環の仕組みの構築を提案する。

【川上・川中・川下】

山と木造建築が舟運による地域産業として結びついていたことの名残から、木材のマテリアル・フローは、川の流れに模して「川上・川中・川下」と呼びならわされている。川上は林業、川中は加工・流通業、川下は設計者や施主を指す。

具体的な木質利用提案

① まちなみ作り（景観整備）

周辺の森林環境が近づいたような景観、散策や滞在の中で木の温かみを感じ、歩いていて楽しく、落ち着きを与えられるような温泉街を創出できる。

② エネルギー（木質バイオマス）

間伐材や廃材、ウッドチップなどをバイオマス燃料（再生可能エネルギー）として使い、地産地消型の電源・熱源として利用できる。

③ 住民・観光客参加

木質を利用した住民参加型の居場所作りや体験プログラムを通じて、森林資源の維持・循環を「自分ごと」として捉えることができる。

役割▷安定した炭素吸収

川上

- ・森林所有者の関心の低下
- ・林業の担い手減少
- ・木材価格の低迷
- ・広葉樹需要の減少

役割▷無駄のない加工

川中

- ・加工の際の廃材発生による歩留まり減少
- ・消費者の顔が見えないことによる規格在のみの提供

役割▷炭素固定量の増大

川下

：水上温泉街

- ・公共施設 ・大規模建築
- ・アーバンファーマーニチャー
- ・エネルギー ・修景
- ・土木構造物

①歩留まりを向上し、マルチスケールで暮らし・観光に寄与する木材利用

②川下の人たちと、川上、川中を結びつける場づくり、プラットフォームの提供

③住民・事業者が木質利用に参加することによるまちづくりツールとしての利用

④木育や子供たちが木に触れる居場所作り

【歩留まり】

一定面積の森林から生み出される木材製品の生産量割合や収益を指す。生産・流通過程における材料ロスの増加等により歩留まりが下がれば、川上の森林・林業が潤わず経営が持続しない。

水上温泉街における木材流通の場や住民、観光客参加による森林維持の仕組みを構築することにより、**人もまちも森も健康に循環していく**ことができる地域になることが期待される。

▲水上温泉街の木材流通のフローと「川上・川中・川下」

●エコパークと共生する温泉郷の再生モデル

みなかみPJでは8/26に初めてみなかみ町や群馬銀行、依頼元であるオープンハウスの方々に向けてこれまでのリサーチ結果を発表する機会をいただいた。現地の方々と一緒に顔を合わせ意見を交わすことで、ようやくプロジェ

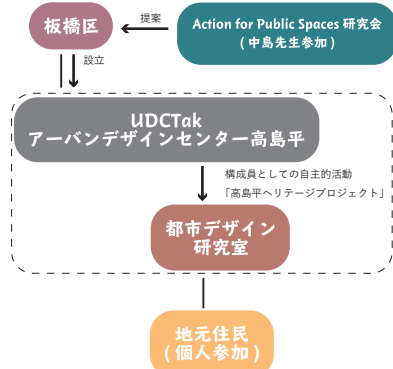
クトとして本格的にスタートしたと感じた。2050 カーボンニュートラル、更にはその先の観光地像について、みなかみ町の方々や学生メンバーと話し合いを重ねながら探っていききたい。

プロジェクトのカタチ

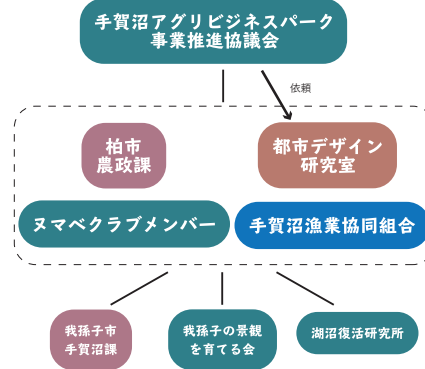
本号では今年度新たにスタートしたみなかみPJについて紹介してきたが、温泉街と自然環境・脱炭素といった活動の中身と共に、不動産デベロッパー依頼の元で行政の他に地方銀行と連携して取り組む点が特徴的である。しかし翻って都市デザイン研究室で動いている各PJを見てみると、一口

にPJと言ってもそれぞれ依頼主や連携相手などそのカタチは多様であることに気付く。そこで本頁では、いくつか Pick Up したPJの全体像を図にまとめ、特徴を比較していくを試みた。次号で扱う、「PJ間の比較」というテーマの導入としても見て欲しい。

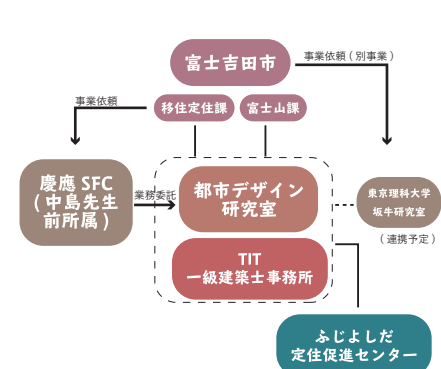
高島平PJ



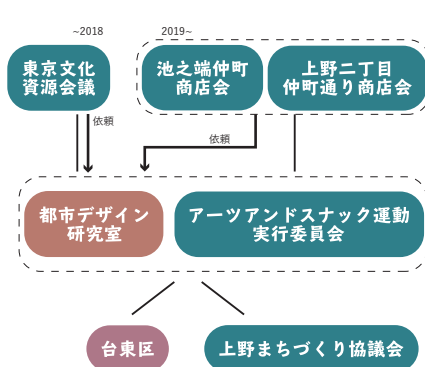
手賀沼PJ



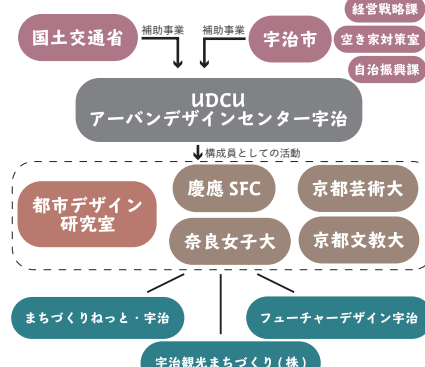
富士吉田PJ



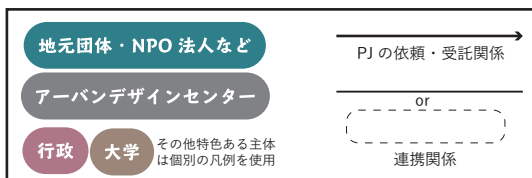
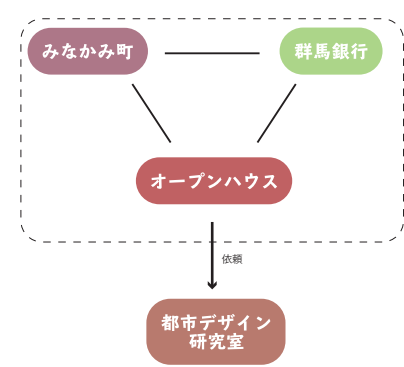
上野PJ



宇治PJ



みなかみPJ



行政、地域の有志団体、UDC、デベロッパーと様々な主体との繋がりからPJ活動が始まっていることがわかる。また、活動を進めていくにあたり連携していく主体にも地域色や個性が表れていた。これらPJに参加している学生は、関わるPJの特色を改めて見つめ直し、またこれからPJに入ることを考えている学生は、どんな主体と連携してみたいかという視点もひとつ考えてみてはいかがだろうか。紙面の都合上各主体の説明はできなかったのですが、気になる主体については、各自調べてみて欲しい。

COLUMN

BOOK OF THE MONTH



まばたきとばたき
鈴木康広
青幻社
2011

推薦者
M2 谷本

アーティスト鈴木康広さんの作品集です。作品に関する素敵なアイディアスケッチと文章が添えられていて、日常の中にあるふとした不思議や面白さに気付かされます。読んだ後は、身の回りをじっくり観察してみたくなります。開くたびにわくわくする本です。

WEB MAGAZINE

続きは都市デザイン研究室 HP で！
<https://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ia/blog/>



ビジョン展設営 & 火祭り

昨年度に作成した上吉田地区の将来ビジョンを題材にした展示会の準備を進めています。今回は現地で設営作業を実施。夜にはこの街の代名詞とも言える祭事「吉田の火祭り」を鑑賞しました。(M2 齊藤)



ガイトウスタンド × EMARF

上野PJでは昨年度製作した街灯に寄生する家具「ガイトウスタンド」を踏まえ、デジタルファブリケーションサービス・EMARFとコラボし、純木製のガイトウスタンドを新たにデザインしました。(M2 河崎)

LOOKING BACK AT AUGUST

7/31-8/1st	宇治	こども WS
4th	富士吉田	市役所プレゼン
	新宿 WG	中間発表
24th	上野	ガイトウスタンド × EMARF おひろめ
26th	富士吉田	ビジョン展設営 & 吉田の火祭り
	みなかみ	官民学金合同 mtg
31st	上野	いけまち mtg 第3回

POSTSCRIPT

みなかみ町に実際に訪れた時、その自然資源の豊富さ・美しさに心を奪われた。個々のポテンシャルの高い要素を統合していくような都市デザインを実践していけたらと思う。(M1 渡邊)